教職課程センター・地域学校教育センター

特集1:小学校教員養成特別プログラム・小学校英語指導者認定プログラム開始

特集2:英語模擬授業合宿 特集3:教職勉強合宿 特集4:教員免許状授与

小学校教員養成特別プログラム・小学校英語指導者認定プログラム開始!

2月19日、明海大学は、玉川大学との間で「小学校教員養成特別プログラム」に関する協定書を締結しました。

このことにより本学外国語学部学生は、玉川大学が提供するプログラムに参加し、科目等履修生として所定の単位を修得することで、卒業と同時に中学校教諭一種免許状および高等学校教諭一種免許状(国語、英語、中国語)と併せて小学校教諭二種免許状(全科)も取得できるようになりました。協定書発効の初年度である 2018 年度には、本学外国語学部の日本語学科学生 2 人と英米語学科学生 1 人、合計 3 人が参加し、小学校教諭二種免許状(全科)を取得する取組を開始します。本学としても玉川大学と連携して学生支援を強力に推し進め、学生の夢の実現に向けて邁進していきます。

また、本学は、特定非営利活動法人小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE:会長吉田研作上智大学教授)から、小学校英語指導者登録団体として承認されました。今年4月から教職科目として始まる「小学校英語基礎概論」を修得すれば、「小学校英語指導者」の資格を取得することができます。この資格を得ることで、小学校英語を指導できる人材として学校現場で高く評価され、採用される際に優遇されることもあります。

英語模擬授業合宿

2月14日から16日にかけて、明海大学勝浦セミナーハウスにおいて英米語学科の教職課程履修学生対象の模擬授業合宿を行いました。この合宿の目的は、「英語科教育法」を履修した3年生が今までの学びの集大成を模擬授業という形で発表することでした。第1日目前半は、敬愛大学国際学部教授の向後秀明先生の基調講演が行われました。向後先生は文部科学省勤務時代に現行学習指導要領施行、次期学習指導要領作成に直接関わったことから、英語教員を目指す学生にとっては大変貴重な機会となりました。続いての模擬授業発表と研究協議には朝日大学法学部准教授の亀谷みゆき先生にも加わっていただきました。



第2日目は全国高校生英語ディベート大会 2016 年度優勝 チームである翔凛高校ディベート部顧問のエリン・ブルーニ 先生をお迎えして、「授業で使えるディベート指導法」のご 指導をいただきました。学生の誰もがディベート活動は難し いものと捉えていたようですが、3人一組で簡易なディベート を経験したことで「おもしろい」「もっと活動したい」とい う声が上がりました。短い時間で学生間の親和関係が構築さ れ、今後の目標に向かって全員で進んでいく決意が固められ た合宿となりました。

教職勉強合宿

3月15日から17日にかけて、勝浦セミナーハウスにおいて教職課程履修学生対象の勉強合宿を行いました。

この合宿 の目的は、 今年の7 8日の教 採用試験の 受験を控え ている 年生7人を 中心に卒業



生 4 人も参加して、この時期からしっかりと計画的に勉強に取り組み、一人ひとりが万全を期して採用試験に臨むことができるように準備をさせることでした。さらに、この合宿では日本語学科と英米語学科の学生が参加し、学科を越え、学年を越えて「チーム教職」の絆を強めることができました。

この合宿で、学生は教職教養対策や専門(国語・英語)試験対策などの講義や個別相談などを受けるとともに、自学自習の習慣を身につけることができました。



また、東京都採用試験に既に合格している英米語学科 4 年の大塚桃加さんから、採用試験の対策の経験を通しての具体的なアドバイスをしてもらい、貴重な情報を共有できました。



Congratulations!

3月14日に2017年度学位記授与式が行われました。センターでは独自のセレモニーを行い、学位記と一緒に日本語学科7人と英米語学科9人計16人の教職課程修了生に対して、教員免許状を授与しました。セレモニーでは、教員免許状と一緒に高野敬三副学長からの一人ひとりへのメッセージを添えて手渡し祝福しました。4月から教壇に立つ者も社会人となる者も、皆笑顔が喜びと希望で輝いていました。本当にご卒業おめでとうございます!



東京都立葛西南高等学校との連携協定締結

3月28日、東京都立葛西南高等学校(校長:坂本純一)との間で、相互の教育交流を通じ、高校生の視野を広げ進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに、高等学校・大学の求める生徒像・学生像及び教育内容への理解を深め、かつ高等学校教育・大学教育の活性化を図るため、連携協定を締結します。これまでも、英米語学科の教職課程履修生が葛西南高校の「校内寺子屋」の講師として放課後補習授業を手伝ってきました。これからはますます連携の幅を広めていきます。